

# 注 意 報

農技セ第6519号  
平成29年9月6日

各関係機関長 殿  
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病害虫防除所長  
(公印省略)

平成29年度農作物病害虫発生予察情報について

平成29年度農作物病害虫発生予察注意報第6号を發表したので送付します。

## 平成29年度病害虫発生予察注意報第6号

平成29年9月6日  
徳 島 県

県東部地域の秋冬ネギについて、8月後半の巡回調査の結果、ネギアザミウマによる被害が平年に比べ多く、向こう1か月の平均気温も平年より高く、晴れの日が多いと予測されていることから、今後も発生が増加し被害の拡大が懸念されますので、注意報を發令します。

現地においては発生状況の把握に努めるとともに、適切な防除指導をお願いします。

作物名：秋冬ネギ  
病害虫名：ネギアザミウマ

1. 発生地域 県東部のネギ栽培地帯
2. 発生時期 9月～
3. 発生程度 中～多(前年より多く、平年より多い)

#### 4. 注意報發令の根拠

- (1) 8月後半(8月28日)の巡回調査(県東部の9圃場)の結果、発生圃場率が100%、被害度\*が7.2と、平年(28.4%, 0.8)に比べて高く、ネギアザミウマの幼・成虫も確認された。
- (2) 9月4日に巡回調査圃場の近隣11圃場を調査した結果、発生圃場率が72.7%、被害度が8.2と巡回調査圃場同様に発生が多い。なお、被害度が21.0と多発生している圃場も認められた。
- (3) 高松地方气象台が8月31日に發表した1か月予報では、気温は高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、平年と同様に晴れの日が多いと予測されており、発生助長的な気象条件である。

\* 被害度は、1圃場当たり任意の50株について、被害程度別に調査し、被害度を算出した。

被害程度

A：1株当たりの被害葉率が51%以上、B：被害葉率が31～50%、C：被害葉率が16～30%、  
D：被害葉率が1～15%

$$\text{被害度} = \frac{4A + 3B + 2C + D}{4 \times \text{調査株数}} \times 100$$

## 5. 防除法等

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 被害葉は発生源となるので、圃場周辺に放置せず、速やかに処分する。
- (3) 薬剤抵抗性の発達を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、系統の違う薬剤を輪番で使用する(表1)。
- (4) 防除等の詳細については、徳島県植物防疫指針を参照するとともに、薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベル記載事項を遵守する。

表1 ネギでアザミウマ類に登録のある農薬(農薬登録内容：2017年9月5日現在)

系 統	農 薬 名	希 積 倍 数	使用時期	使用回数	
※播種時,定植時処理					
ネオニコチノイド系	スタークル,アルハリン粒剤	6kg/10a 株元散布	定植時	1回	
	アクタラ粒剤5	6~9kg/10a 作条混和	植付時	1回	
		6kg/10a 作条混和	播種時	1回	
	モスピラン粒剤	6kg/10a 播種土壌混和	播種時	1回	
		6kg/10a 植溝土壌混和	植付時	1回	
	0.25~0.5g/株 株元散布	定植前日~ 定植当日	1回	いずれかの処理で 1回	
※発生初期散布剤					
ピレスロイド系	アグロスリン乳剤	2,000倍	7日前まで		5回
ネオニコチノイド系	アドマイヤー顆粒水和剤	5,000倍	14日前まで		2回
	アクタラ顆粒水溶剤	1,000~2,000倍	3日前まで		3回
	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	7日前まで	3回	
その他	アニキ乳剤	1,000倍	3日前まで	3回	
	ウララDF	1,000~2,000倍	前日まで	3回	
	プレオフロアブル	1,000倍	3日前まで	4回	
	ディアナSC	2,500~5,000倍	前日まで	2回	

(参考)



写真1 ネギアザミウマによる被害の様子



写真2 ネギを加害するネギアザミウマ成虫



写真3 ネギアザミウマ成虫